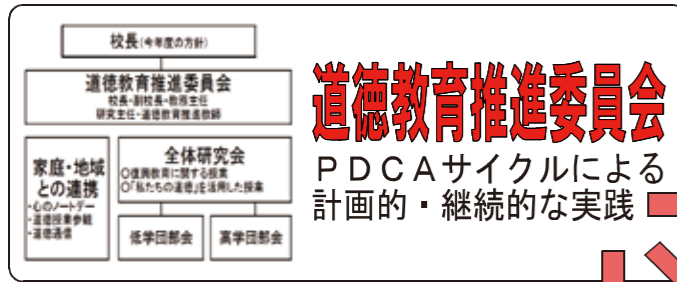


学校組織としての取り組み



復興教育道徳授業

3月11日の授業では、復興教育副読本の中から主要教材として選んだ資料を使って道徳の授業を行います。授業の前には全校集会を開き、復興教育の意識付けを図ります。

- 1年 まけないぞうがなぐさな (郷土愛)
- 2年 協力し合うって楽しい (勤労)
- 3年 今回の震災で感じたこと (家庭愛)
- 4年 多くの命を救った防災無線 (生命尊重)
- 5年 まごころを運ぶバス (社会奉仕)
- 6年 20キロ圏内から来たキティ (生命尊重)

「私たちの道徳」の活用～心のノートデー～

心のノートデー
保護者の感想

- 共通の話題ができ、それについて一緒に考える時間がとても大切だと感じます。
- この取り組みの後に道徳の授業参観をしましたが、娘と話し合うのに（授業が）とても参考になりました。

①毎月月末「私たちの道徳」を家庭で読む時間を提案しています。
②毎週水曜日の読書タイムには、自由読みの時間を取っています。

多くの保護者から感想が寄せられ「親子が共通の課題意識をもって考えることができる。」と、好評です。

模擬授業とワークショップ型研究会

模擬授業では、先生たちを子どもに見立てて実際に授業を行います。的確な発問や予想される児童の反応を考えたり、効果的な板書や資料提示の方法などを検討したりすることができます。

ワークショップ型研究会では、模擬授業で出された課題をもとに焦点を絞ることで、成果と課題がクローズアップされ、短時間で効率的な研究協議ができます。



学校の教育活動全体で取り組むという観点から、校長の方針の下、学校の重点や方向性について共通理解し、道徳教育推進教師を中心とした組織的で一貫した推進体制により、道徳の時間を要とした道徳教育の充実を図り、豊かな人間性を育みましょう。

活用しやすい全体計画・指導計画への改善

～「復興教育副読本」・「私たちの道徳」・「岩手県版小学校道徳資料集」を位置づけて～

改訂版作成の手順

- ①復興教育副読本と岩手県版資料集の内容を確認して各学年に割り当て、配当表を作成する。
- ②道徳推進委員会で話し合い、配当表の内容を検討する。
- ③学年割り当ての資料内容を担任が確認し、ねらう道徳的価値に即して別業に配置する。

資料名	学年	具体的21項目	期別	要する学習
三陸復興のたかい	6	①やめぬ強さ	④⑤	4年社会(道徳) 道徳1-②
「もっこ」で学ぶ配当	5	③確かな自分	⑤	道徳1-②
夢、勇気を持って一歩踏み出そう	4	④夢や希望の大変さ	⑤⑥	中学1-7
20キロ圏内から来たキティ	6	①かけがいのない命	③④	道徳1-③
海人の心	5	②自然との共存	⑤⑥	5年社会(道徳) 道徳1-②
1年間やっつけた入浴支援	6	③確かな自分	⑤⑥	5年社会(道徳) 道徳1-②
みんなの心しんがよくなるために	5	①やめぬ強さ	②④	道徳1-② 学習指導 道徳1-②
あまのこころ	6	⑥心の健康	⑦	5年社会(道徳) 道徳1-②
チャレンジデーが挑戦者	4	⑦体の健康	⑤⑥	4年社会(道徳) 道徳1-②
手組運動、ストレッチ	4	⑦体の健康	⑤	*
多くの命を救った防災無線	4	①かけがいのない命	③④	道徳1-③ 5年社会(道徳) 道徳1-②
二人二語二語	5	④夢や希望の大変さ	⑤⑥	5年社会(道徳) 道徳1-②
作文 次の日は皆に笑おう	6	⑥言葉のきずな	⑤	道徳2-③
夢が叶ってほしい、そして願っている	4	④夢や希望の大変さ	⑤	5年社会(道徳) 道徳1-②
地域のみんなで助け合う	4	⑧地域づくり	⑤	4年社会(道徳) 道徳1-②

「私たちの道徳」「岩手県版小学校道徳資料集」「復興教育副読本」からそれぞれ2～3の資料を選び、年間計画に配置しました。

復興教育副読本は、新たに項目を作り、内容が重ならないように位置づけました。主要資料または副次的な資料として使用します。

各教科・領域等などの場面で活用できるかを考慮して各学年に割り当て、関連する学習を検討しました。

学級における指導計画（全体計画 別業）

「私たちの道徳」を活用した授業

【資料名】命ある限り生きる（4年 3-① 生命尊重）
【主要資料】私たちの道徳 【補助資料】院内学級の資料・映像資料「強い子」

今回扱った資料は短い詩であるため、詩が生まれた背景や主人公が置かれている状況などの理解を深めるために、情報を補充しながら展開しました。

「深化」を意図して発問を組み立て、振り返りの場面では「精いっぱい生きるとはどのように生きることなんだろう」と投げかけ、自己を深く見つめさせました。終末には、動画「強い子」を視聴させました。実話に基づいた資料を活用することにより、心に響く道徳の授業となりました。短い詩でありながらも、教師の創意工夫によりねらいとする価値に迫ることができることを実感した授業でした。

道徳教育の充実のために 大切にしたい4つのポイント

学校組織としての取組の充実

- 校長が道徳教育の方針を明確に示すこと
- 道徳教育全体計画の中に、道徳教育推進教師を中心とした機能的な推進体制を位置付けるとともに、研修の充実を図ること

「いわての復興教育」の教育的価値を踏まえた道徳教育

- 「いわての復興教育」（いきる・かかわる・そなえる）の教育的価値を踏まえた道徳教育を推進し、特色ある道徳教育を進めることで、児童生徒の「道徳的な心情」、「判断力」、「実践意欲と態度」などの道徳性をより一層養うこと

活用しやすい全体計画、指導計画への改善

- 全体計画の改善に当たって、道徳教育にかかわる、各教科等における指導の内容及び時期を整理したものや体験活動、家庭・地域社会等との連携のための活動等が分かるものを別業として加えるなど、年間を通して具体的に活用しやすいものにする。
- 年間指導計画の改善に当たって、展開の概要を加えるなど、各時間の指導の概要が分かるものにする。

魅力ある道徳の時間の計画的な実施

- 形式的な指導に陥らないよう、指導方法を吟味するとともに、児童生徒の心に響く魅力的な教材を開発・選択したり、「私たちの道徳」や「岩手県版道徳資料集」を活用したり、地域との連携を図ったりすることを通して、創意工夫ある指導を行うこと



魅力ある道徳の時間の計画的な実施

道徳的価値の自覚を深める指導の工夫

— 関市立滝沢小学校の実践より

研究主題 自己を見つめ よりよく生きようとする児童の育成
～ 補充・深化・統合を意図した道徳の時間の工夫を通して～

自分とのかかわりで道徳的価値をとらえる

礼儀（価値）って大事なんだな。

(例)
あいさつって大事な。先生や大人にはできていたけど友だち同士でもあいさつを交わらせるようにしたいな。

**礼儀とは、相手のことを大切に
にする心の表れなんだな。**

(例)
あいさつも真心を込めてできるようにしたいな。礼儀をもって接することで、お互いが気持ちよく暮らせるんだ。

他の活動ではどうだろう。

(例)
体育のバスケットボールのときのあいさつにも、真心や相手を尊重しているよというような気持ちがあるんだ。しっかりと伝えられるといいな。

補充

児童の実態を踏まえて、感じたり考えたりする機会が得られにくい道徳的価値について、道徳の時間を通して感得することができるようにすること。

深化

児童の実態を踏まえて、道徳的価値の意味やそれと自己とのかかわりについて、道徳の時間を通して一層考えを深めることができるようにすること。

統合

児童の実態を踏まえて、多様な体験から得られるそれぞれの道徳的価値や自己とのかかわりについて統合し、新たな感じ方や考え方をもてるようにすること。

価値をとらえる

価値をみつめなおす

価値を関連付ける

「要」となる道徳の時間

自分の思いや考えを可視化する

「四角柱」で思いを類型化して



四角柱を用いて意見を類型化し、自分の考えを明らかにして話し合います。発言できなくても全員が考えを表すことができます。また、教師は意図的な指名につなげることができます。

「心情円」で揺れる心を



心情円を用いて主人公の葛藤や迷いを考えさせます。自分自身を振り返るときに使うこともあります。

「心のめもり」で心の変化を



心のめもりを使って主人公の心の変化を考えさせます。なぜ主人公の気持ちが変わったのかを考えさせるのに有効です。

「役割演技」や「動作化」の工夫で



登場人物になって、自分の思いや考えを表現させます。登場人物の心情を共感的に理解することができます。

自らの成長を記録する



書く活動を通して自分の考えや感想を残し、振り返る資料とします。

導入・終末を工夫する

保護者からの手紙を読んで

児童の日常を映像で



詩歌などを活用して WEB版「私たちの道徳」を活用して



価値への方向づけや道徳的実践意欲を高めるために効果的な資料の工夫をします。

道徳的価値の理解を深める板書を工夫する



本校の板書のポイント

児童の思考を整理し、多様な考えがあることや、自他の考えの違いに気づかせるようにします。

- 場面絵や心情曲線を生かして構成します。
- 考えや感じ方の違いを類型化するときには、左右や上下で対比して示すようにします。
- ※板書資料は保管し、次年度も使えるようにしています。

「いわての復興教育」の教育的価値を踏まえた道徳教育

体験活動を通して価値理解・人間理解

高台造成工事の様子を見ながら、「うごく七夕」森前組の山車に飾る七夕飾りの製作を体験させていただきました。「郷土を愛する心」を感じることができました。

横軸連携の交流活動をしている高田小学校の校長先生より、被災当時の学校の様子や児童の様子などのお話をうかがいました。その後、ボランティアガイドさんと共に市内を巡り、自分たちで作った千羽鶴を供えたり、被害を受けた方々の話を聞いたりして、津波の被害や復興の様子などについて学習を深めることができました。



交流活動を通して他者理解

「うごく七夕」森前組の代表の方から震災津波の体験、山車の復活にかけた思い、地域再生に向けて力強く生きていく決意などをうかがいました。内陸部で生きる自分とのかかわりを踏まえ、考えを深めました。



副読本を活用して授業構成

震災で十分な入学式ができない状況の中、「虎舞」で新入生を元気づけたいと願う人々の心の葛藤や、自然と共にその土地で生きていく人々の思いを取り上げながら、郷土を愛する心について考えさせました。



各教科・領域とのかかわりを明確にした単元構成



「要」としての道徳からさらに新たな活動へ

「要」としての道徳の授業で生まれた新たな思いや行動は、次のステップの道徳的価値の補充・深化・統合につながり、そして道徳的実践へと結びついていきます。

道徳の時間の後に行われる教育活動が去年と変わらない活動でも、子どもたち一人一人の意識が変わり、意欲も変わります。そのスパイラルこそが、「いわての復興教育」であると考えています。



～平成26年度 6年生の実践より～
主要資料 「虎舞」4-(7) 郷土愛 東京書籍岩手県版
補助資料 「海人の心」②自然との共存 復興教育副読本